

氷見地区 (二期)

(富山県氷見市)

- 計画期間 平成23年度～平成27年度
- 面積 350ha
- 交付対象事業費 1,040百万円
- 市人口 44,614人

ポイント

「観光客と住民が行き交うまちなかづくり」

地区概要

本市出身の漫画家「藤子不二雄[Ⓐ]」氏の人気キャラクターを活用したからくり時計やモニュメント、海鮮館などにより、観光客の誘致を図る。

目標

生活基盤整備を行い、定住人口流出の歯止めを図るとともに、地区内の集客拠点相互とまちなかを結ぶ歩行者ネットワークを形成する。また、氷見駅からの回遊性を高め、まちなかへの来街者増加による賑わいの創出を図る。

指標

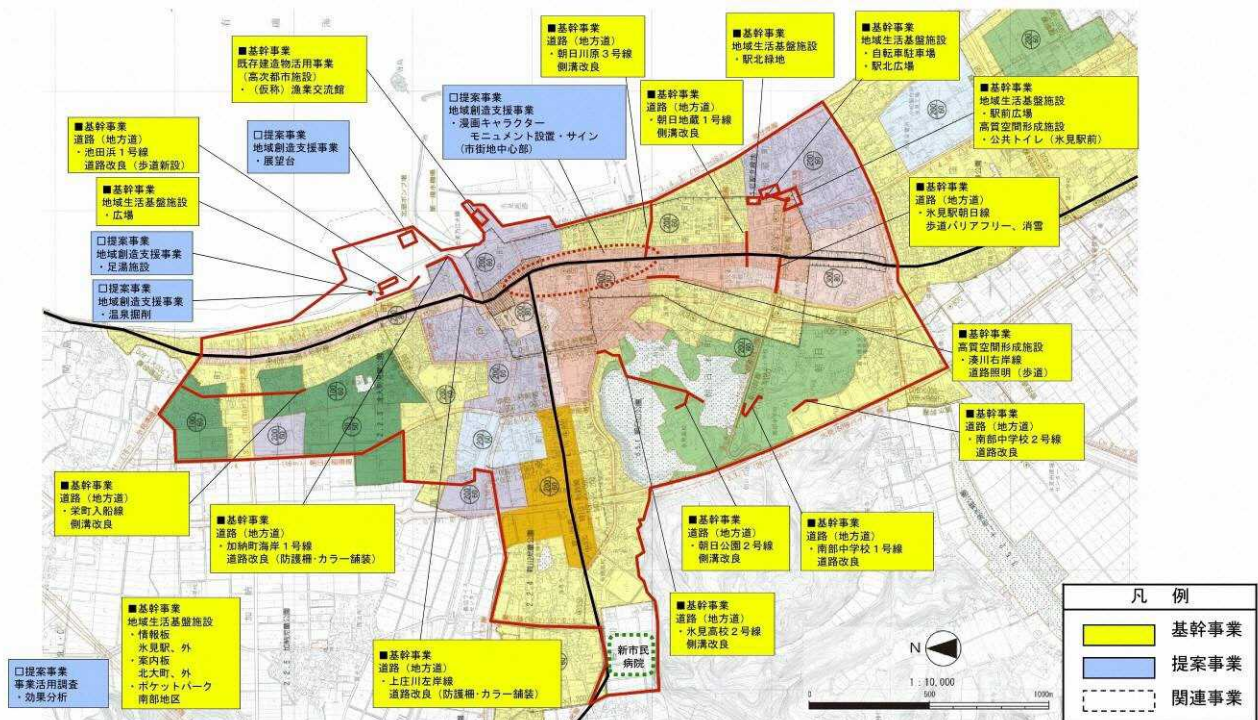
観光客と住民が行き交うまちなかづくりを目指して、地区内人口の減少数、来街観光客数、地区内イベント参加者数を指標とした。

地区内人口の減少数	人/年	-161 (H21)	→	-241 (H27)
来街観光客数	人/日	2,079 (H21)	→	3,391 (H27)
地区内イベント参加者数	人/年	178,016 (H21)	→	168,971 (H27)

事業内容

基幹事業 (905.1百万円) → 道路 (11路線、2,430m)、情報板、案内板、北大町広場、駅前広場、駅北広場、ポケットパーク、駅北緑地、自転車駐車場、公共トイレ、道路照明、既存建造物活用事業

提案事業 (134.9百万円) → 展望台、足湯施設、温泉掘削、漫画キャラクターモニュメント、事業効果分析



地区の現況と課題

地区の現況

本市も他市町村と同様に急激な人口減少や少子高齢化社会となる中で、当地区は、本市の商業中心地として栄えてきたが、モータリゼーションの進展や郊外型大型店舗の進出といった外的要因に加えて、市街地道路網の整備の遅れ等により、中心市街地の求心力が低下している。

地区の課題

観光・交流を促し、中心市街地の活性化を図るため、「観光・交流人口がもたらすインパクトを受け止めるための環境づくり」や「住み易さの向上による人口流出の抑制や定住を促す環境づくり」が必要である。

提案事業の特徴

地域創造支援事業

□展望台

氷見市のシンボルとも言える富山湾越しの立山連峰を一望できる場を提供する。

□温泉掘削

温泉を核とした新たなまちづくりの拠点整備を図るべく、第3セクターによる施設整備に対して助成する。

□足湯施設

温泉を利用した公共施設として、ふれあいの場を提供する。

計画策定プロセス

まちづくりの経緯

当地区においては、平成17年度～平成21年度にかけて、第一期都市再生整備計画を実施し、バリアフリー化などの歩道整備や案内板の設置、潮風ギャラリーの整備、本市出身の漫画家「藤子不二雄[Ⓐ]」氏の人気キャラクターを活用した貯氷庫壁面のデザインなど、多岐に渡る整備を実施し、観光客数は微増傾向となっている。しかし、その多くは立ち寄り型の利用がほとんどとなっており、市街地全体への波及効果が少ない状況にある。

第二期都市再生整備計画については、商工会議所、商店街連盟、地元自治振興委員などの第三者による「都市再生整備計画策定委員会」を設置し、第一期事業の事後評価結果を踏まえながら、諸施策の内容について検討を行い、策定した。



▲ 駅前広場



▲ 駅北広場自転車駐車場



▲ 駅北緑地



▲ 漫画キャラクターモニュメント